

げんじょう マリナロ和尚による禅スタディ ソサイエティに関する新情報

これは [げんじょうマリナロ和尚](#)によるちょうぼう寺僧伽メンバー宛、内部間の通信です。彼は“これは、ちょうぼう寺僧伽宛、私の最近の訪ニューヨークに関する新情報で、通常私はちょうぼう寺内の通信物を一般公開しないのですが、公明性を重んじるという観点より、スウィーピング禅に掲載する価値があると思われるならば、どうぞそのようにして下さい”と書いています。

親愛なるちょうぼう寺僧伽の皆様

これが私の最近のニューヨーク訪問に関する新情報です。

6月5日理事会は大菩薩禅堂（DBZ）の僧達、在住者、常連の僧伽メンバー等と夕食の2時半から8時半の休憩時間を利用して会合を開きました。

私達は今後2年間栄道老師（ER）が、限られた時間割で教鞭に立つ事をどんなに望んでいるかという声を聞きました。私達は更に、最近の私の法話がいかに彼らに対して挑戦的中傷に満ちていたかという声を聞きました。“父の家で父を誹謗した”等等。

理事会は、ERがなぜ退職し、教鞭に立つ機会が全くないか、殆どないまま、退職状態を継続しなければならないかと言う理由を十分に討論しました。

心華老師は此れに関する問題として、DBZに属する人びとがあまり彼女のもとへ独参に来ないと話しました。殆どの人びとの此れに対する回答は、未だ多くの人びとは悲嘆にくれているため新しい独参に出かける心のゆとりがないか、又は、ERの復帰を待ち望んでいるためか、又は、最早彼を師として望んでいないと書く事によってERの感情を害したくない（此れ迄の必要条件）等の理由であります。

6月6日、理事会はDBZの僧等と会い、前弟子等の要求、つまり、限られた範囲と言う条件で多くの特権を要求する理事会との合同声明と此れに対するERの返答（実はその欠如）を聴聞しました。この返答は心華老師によって伝えられましたが、彼女は代弁してはおりません。何故かと言えば、ERは完全に不承知か又は、調停のために理事会が最低必要とする条件の大要に歩み寄る可能性のないことが明白で、そのため理事会は新しい声明書、つまりERは完全に退職し、ZSSの賛助下でいかなる教えも行わないと言う理事会の立場を反復する声明書を書き直すと言う事で会は終了しました。理事会は更に、ERをお盆の祭礼に、又、DBZの前門建立終了の折の開門式にも招待しない事を決定しました。理事会は更にERの退職協定に全力を尽くす事、我々は未だ95項の延期されている未解決の報酬問題等に囲まれています。退職の提案は月末前に会議の場でERの署名を得るよう進められており、この場において、彼に完全退職、更にZSSの賛助下で教鞭は取らないと言う我々の方針を通知します。

6月7日、私達はニューヨーク禅堂において終日16名の出席者のために坐禅を行い、提唱を行い、礼儀正しく振舞いましたが、それでもERに対して批判的すぎると言う苦情

を受けました。しかし、殆どのNYZの人びとは私と理事会の趣旨、ERの完全退職を支持しています。

終日の坐禅を終えて私はERの古参の元弟子であった人と夕食を共にし、ERの“合意による”弟子との不謹慎な性関係の話聞き、その結果私は、ERは絶対にZSSに復帰して教鞭をとってはいけないという確信を持つに至りました。

他のZSSに関する情報としては、私達はやっとERから全ての文書、記録、印等を受け取りました。我々の法律家はこれらの始めの部分に眼を通した結果、多くの不一致が見られるけれども、詐欺や酷い不法処理はなさそうであると言う事でした。次に私達は二人の会計士と共にNYZとDBZを平常な会計処理が行える状態に迄整理を試みる予定です。私達の会計係はボランティアで、立派な仕事を果たしてくれていますが、彼自身会計士ではありません。一旦会計簿が正常な状態になったら私達は歴史的な部分の再調査を始めます。NYZの錠は取り替えられ、もうNYZで告示されない会議、活動が構内で行われる事はありません。

8月27日の週末、DBZにおいてZSSの調停会議が予定されています。すべての弟子達に取って思う事を発言する良い機会、ZSSの将来を心配する人びとの出席を希望します。ショシャナ スザンヌ トリナーによる将来を想像する方式の空間とも呼ぶべき議題が計画されています。宿泊、会議費は徴収しませんが、費用を賄う為に寄付は有り難く頂戴します。

では、今はこれまで、多くの仕事が待っています。

合掌

~げんじょう